

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200102
法人名	特定非営利活動法人 こしき風林火山
事業所名	グループホーム 多喜人
所在地	鹿児島県薩摩川内市里町里470 (電話) 09969-3-2127
自己評価作成日	令和6年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

甕大橋によりひとつになった甕島。上甕島の里町、観光名所の一つである武家屋敷通りに当施設がある。
新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行し、地域との交流が少しずつ増えてきた。また、近隣から野菜や魚等の差し入れが多く、住み慣れた地域の中で生活できている実感がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は甕島へのフェリーの一番目に定着する港にあり、川内市との交流も距離的に近く、利便性が良い場所に位置している。自治会に加入しており地域の人と散歩時に挨拶をしたり、野菜や新鮮な魚の差し入れ等もある。
- ・医大生の地域医療の実習を受け入れており、ボランティア・体験学習等の受け入れ体制が出来ている。
- ・外国人就労者を含め職員一丸となって、利用者や家族等の馴染みの関係が途切れる事のないように努力している。長く勤めている職員が多いが馴染み合いにならない様に話し合いながら日々のケアに取り組んでいる。
- ・検温・手指消毒・マスク着用で居室にての面会を継続し、家族からは大変喜ばれている。
- ・利用者に居心地よく過ごしてもらえるように、明るさや温度・湿度の管理を行っている。また、「匂い」にも配慮して清掃を行っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内で目立つ場所に掲示している。	ホールの真ん中に理念を掲示し、管理者・職員は理念を共有して日々のケアに努めている。毎月の職員会議でも理念についての話し合いをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、少しずつ地域との交流が増えてきている。	自治会に加入している。医大生の地域医療の実習を受け入れている。ボランティア・体験学習の受け入れ体制もできている。ドライブや散歩時の挨拶、地域の人からの野菜や魚等の差し入れもあり、日常的に親しく交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	各職員が出来る範囲でおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での会議が再開し、直接意見交換が出来ている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、対面での会議を再開した。事業所の活動状況や生活状況・外部評価等の報告を行っている。認知症の相談や孤立させないための相談が出され、意見を活かせるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	甌島振興局が隣町に、市民サービスセンターが同町にあり、足を運ぶ機会が多く、情報交換おこなっている。	町担当者とは連携を取り合い、運営推進会議にも参加してもらっている。相談や情報交換も行っている。市主催の研修案内がきたら職員へ紹介し、リモートで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束適正化委員会を設置し、身体拘束を理解し、身体拘束をおこなわないケアをしている。	身体拘束適正化委員会を設置し虐待防止委員会と合わせて職員会議後、勉強会を実施している。言葉の拘束については気付いた時に注意しながらケアに取り組んでいる。日中の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待を理解し、虐待を絶対におこなわないケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度に触れる機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所申し込み時は本人及びご家族に来園いただき、施設見学や重要事項説明をおこなった上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者は日常生活の中で、ご家族には面会時や毎月文書配布の自宅訪問、電話等で要望等確認するようにしている。	利用者から日常の係わりの中で意見を聞いている。家族からは面会時や担当職員が自宅に毎月文書を届ける際に話をしている。電話で話すこともある。食べ物や差し入れ等の相談が多い。希望や要望を確認して運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等で設けるようにしているが、その他個別でも対応している。	毎月の職員会議や申し送り時等に聞いたり、個人的な相談にも応じる等、話しやすい環境づくりをしている。職員から行事の取り組みの話があり、敬老会やクリスマス会の準備等を職員自ら率先して取り組んで利用者に喜んでもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務に対する姿勢等を評価し、賞与にて反映するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	立地的要因もあり、外部研修の機会が非常に少ないため、施設内研修を随時おこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時は同業者との交流を図るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前訪問が重要であると考え、コミュニケーション等により環境変化や精神的変化の緩和につとめるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時より継続的に関わり、入所前の自宅訪問や入所後の訪問、電話連絡等で情報収集につとめ、環境整備に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時、必要に応じてその他のサービスの説明も併せておこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活リズムが職員の都合で左右されないように注意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への状況報告は定期的な文書による報告や、電話連絡等おこなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	私物購入や理美容等、本人やご家族の希望がある場合は、可能な限り対応している。	感染防止対策をして家族は居室で面会をしている。ドライブで自宅へ訪問することもある。外出や外泊も可能で、電話や手紙・ハガキ等のお手伝いをしたり、美容師の訪問もあり、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が自室に閉じこもりにならないよう、茶話会やレクリエーション等交流の機会を多く設けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況確認、面会等は可能な限りおこなうようにしている。また、ご家族との関係も継続している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の状況確認やコミュニケーションの中で、本人の希望や意向の確認をおこない、利用者本位の介護につとめている。	日中ゆっくりしている時に話を聞くことが多い。洋服を決めたり、食事の希望が良く聞かれる。困難な時は表情や動き等を見て家族や職員間で話し合ったり、生活歴等から把握して本人の思いを検討して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前訪問を十分におこない、環境整備に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を確実に把握、理解し、利用者の生活リズムの把握につとめている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や朝礼等で各利用者の状況や変化等を情報共有している。	本人・家族・職員で話し合いを行って、介護計画を作成している。モニタリングは1ヶ月毎、介護計画の見直しは変わりがなければ1年、状態変化の折には随時見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を作成、記入し情報共有を図るとともに、職員間での申し送り帳を作成し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の立場となり、利用者の意向が出来る限り反映できるよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを大切にし、地域行事への参加等おこなうようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則入所までのかかりつけ医を継続し、定期往診をしていただいている。体調変化時の受診も施設にて対応している。	利用開始前からのかかりつけ医である。2週間に1回訪問診療を受けている。歯科受診は職員が同行している。島外の医療機関へ行く場合は家族と管理者が同行し受診している。救急搬送時の付き添い、退院の迎えも管理者が対応している。24時間医療連携体制がとれている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他職種協働により主治医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院は本土医療機関であることが多い。入院中は入院医療機関との密な連携等を通し、退院時のスムーズな受け入れ等に配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りに対する意向を確認し、その後状態変化時に随時再確認している。	重度化・終末期・看取りについての指針があり、利用開始時に説明し記録に残している。状態の変化に応じて主治医から家族へ意向を確認している。診療所の看護師が訪問して、点滴等の対応を行っている。看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等により、適切に対応できるよう、随時確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や、その他不定期におこなわれる行政による訓練に可能な場合は参加している。	火災等の避難訓練は昼夜間想定で年2回、1回は消防署立ち合いのもとで、1回は自主訓練で実施している。地震時の津波対策は町全体で検討中である。自動通報装置で連携が取れるようになっている。設備点検も定期的の実施している。備蓄は水・米・乾パン・レトルト食品等の準備をしている。カセットコンロやおむつ等もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者・ご家族が昔からの知り合いという場合が多く、そのことにより利用者・ご家族と馴れ合いになってしまわないよう注意している。	人権やプライバシーへの配慮について職員で資料作りをして内部研修を実施している。名前は名字・下の名前をさん付けで呼んでいる。入室時のノック、入浴時やトイレ誘導時の声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や意向を把握できるようなコミュニケーションに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを把握し、その生活リズムを守るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己決定が困難な利用者は、職員が確認しながらおこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全利用者が食事を楽しみにされている。地元の食材を多く使用し、家庭的な食事の提供につとめている。	差し入れの野菜や魚を使用し、その日に合わせた食材で調理担当の職員が食事を作成している。行事食・誕生日ケーキ・おやつ等も作っている。利用者はつわむきや野菜の下ごしらえを職員と一緒にいき、食事を楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表を作成し、食事・水分摂取量の記録をおこなっている。医療機関やご家族への報告等にも活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者毎食後の口腔ケアを確実にこない、記録している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成、記録し、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等おこなっている。	自分でトイレに行く利用者もいるが、排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握して時間ごとに声かけや誘導をして自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツの活用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく緩下剤を使用しないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日を設けず、利用者の状況に合わせて入浴ができるよう配慮している。	入浴日は決めておらず、週2回は入浴できるように声掛けを工夫している。同性介助にも応じている。入浴時はゆず湯にしたり、入浴剤を選んでもらったりして、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神面での安定やコミュニケーション等により不安軽減を図り、なるべく安眠できるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成しており、種類や効能を記載し、服薬チェックをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出希望時の対応や日々のレクリエーションの実施、ドライブ等、気分転換への配慮をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	馴染みの店での私物購入や理美容室、自宅訪問等の希望に沿えるよう配慮している。	花見や買い物・医療機関受診後にドライブで自宅周辺へ行っている。家族と外出を行う等、体調を見ながら希望に添って戸外に出かけている。日常的には近隣の散歩を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を管理している利用者がおられ、私物購入等おこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙等、利用者の希望に沿うよう対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の「匂い」を重視して毎日の清掃に取り組んでいる。また、季節感を感じられる装飾品等配慮している。	リビングは窓が多く明るくて広い。空気清浄機や加湿器を設置し、エアコンで温度・湿度の管理を行っている。壁には季節を感じられる飾りをしている。よく見える場所に手書きの理念も掲示している。利用者が居心地よく過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やテーブル等設置し、交流の場を多く提供できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなるべく自宅で慣れ親しんだ物を置いていただくよう依頼している。希望者には畳敷きも対応している。	ベッド・簞笥・エアコンは備え付けである。自宅で使い慣れた寝具やテレビ・椅子があり、家族の写真や小物を飾り、馴染みの物を近くに置くことで落ち着いた生活が送れるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーとなっており、移動がスムーズに安全におこなえるようになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない